

夏の交通安全県民運動

実施要綱

第1 目的

この運動は、広く県民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、県民自身による道路交通環境の改善に向けた取組みを推進することにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的とする。

第2 期間

令和3年7月11日(日)から20日(火)までの10日間

第3 主唱

福井県交通対策協議会

第4 実施機関・団体

福井県、福井県警察、福井県教育委員会、市町および福井県交通対策協議会の構成機関・団体

第5 統一行動日

- 北陸三県統一「子どもと高齢者の交通事故ゼロの日」

令和3年7月20日(火)

- 一斉街頭活動日(交通事故ゼロを目指す統一行動日)

令和3年7月12日(月)

実施機関・団体が、交差点等の街頭において一斉に交通安全啓発活動および交通安全指導を行う日とする。

第6 推進方法

- ①実施機関・団体は、本運動の趣旨等について組織の隅々まで浸透を図るとともに、具体的な実施計画を策定し、早期に推進体制を確立するものとする。
- ②実施機関・団体は、本運動が真に県民総ぐるみの運動として成果があがるよう、創意工夫を凝らした交通安全教育や街頭指導等の交通安全活動を実施するほか、各種広報媒体を積極的に活用した広報啓発活動により、県民の交通安全意識の高揚に努めるものとする。
なお、交通事故の悲惨さ等に関する広報を行う際には、交通事故被害者や被害者家族の心情に配慮すること。

第7 運動の重点と取組み

- ①子どもと高齢者の交通事故防止【最重点取組み】(北陸三県統一重点)
- ②自転車の安全利用の推進
- ③全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- ④飲酒運転等の危険運転の根絶

重点① 子どもと高齢者の交通事故防止【最重点取組み】(北陸三県統一重点)

夏休みを控え子どもの事故の増加が懸念されることや、今年も依然として高齢者に死亡事故が集中していることから、子どもとその保護者および高齢者の交通安全意識の高揚を図る。また、運転者は、前をしっかりと見ていないことや、左右の安全をしっかりと確認せずに交差点に進入することが昨年の死亡事故の大半を占める原因になっていることから、運転に集中し、子どもや高齢者等の交通弱者に対する保護意識の醸成を図る。

子どもと高齢者は

- 道路を横断する際は、横断歩道を渡る、信号は必ず守るなど、自らの安全を守るための交通ルールを遵守する。
- 信号機のない横断歩道を横断する際、運転者に対して手を上げるなどして横断する意思を明確に伝えるとともに、停止してくれた運転者に対して会釈をする「横断アクション・ペコリン運動」を励行する。また、横断する際は、安全を確認してから横断を始め、横断中も左右の安全を確認する。
- 夕暮れや夜間に外出するときは、運転者が認識しやすいよう明るい服装で反射材を着用する。

運転者は

- 運転中は、車載のテレビを見ながらの運転や、考え事をして漫然と運転せず、『運転に集中』する。
- 子どもと高齢者を見かけた時は十分な減速を行うとともに、側方を通過する際には十分な間隔を保持するなど、子どもと高齢者を見かけたらスローダウンを励行する。
- 歩行者が横断歩道を渡ろうとしている場合は、必ず一時停止をし、横断歩道における歩行者優先を徹底するとともに、相手が安全に行動しやすいように思いやりのある運転を心掛ける。

高齢運転者は

- 参加・体験・実践型の交通安全教室へ積極的に参加し、交通ルール・マナーの理解を深めるとともに、加齢等に伴う身体機能の変化を認識し、その能力に応じた運転を心掛ける。
- 運転に不安を感じるようになったときは、運転免許の自主返納について検討する。
- 運転免許の自主返納に踏み切れない高齢運転者は、まず、自らが運転時間帯や場所等を限定して安全運転を続ける「限定運転」に積極的に取り組む。
- 自動ブレーキおよびペダル踏み間違い時加速抑制装置の搭載されたセーフティ・サポートカーS（略称：サポカーS）等の利用を検討する。



家庭・職場等では

- 外出する機会が増えることから、日常生活や教育現場における保護者や教育関係者からの幼児・児童への教育を推進する。
- 通学路や未就学児の散歩コース等における見守り活動等を推進する。
- 子どもや高齢者が外出する際には、交通ルールの遵守や反射材用品の利用について声かけを行う。
- 高齢運転者に対し、運転免許の自主返納や限定運転の呼びかけや高齢免許返納者サポート制度などの各種支援施策、安全運転相談窓口の周知を図る。



重点② 自転車の安全利用の推進

自転車側の法令違反による事故も発生している現状を踏まえ、自転車利用者に対する交通ルール・マナーの周知を徹底する。

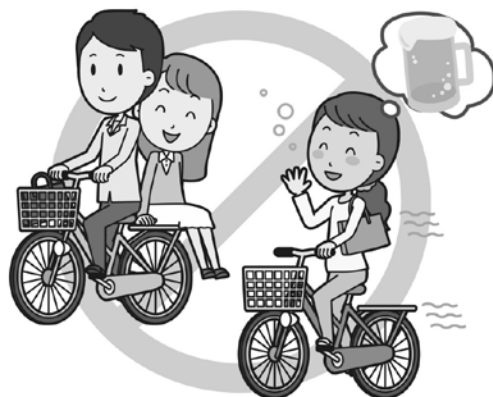
自転車利用者は

- 「自転車安全利用五則」を活用し、交通ルール・マナーを遵守するとともに、高齢者や中学・高校生等の自転車利用者は、反射材・ヘルメットを積極的に着用する。
- 二人乗り、並進、飲酒運転の禁止の徹底と、無灯火、傘差し、スマートフォン等使用、イヤホン使用等はしない。
- 自転車の安全を確保するため、定期的な点検整備を行う。
- 自転車事故被害者救済に資するため、損害賠償責任保険等（TSマーク付帯保険等）へ加入する。



自転車安全利用五則（平成19年7月 交通対策本部決定）

- ① 自転車は、車道が原則、歩道は例外
- ② 車道は左側を通行
- ③ 歩道は歩行者優先で、車道よりを徐行
- ④ 安全ルールを守る
 - 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
 - 夜間はライト点灯
 - 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
- ⑤ 子どもはヘルメットを着用



TSマーク付帯保険

TSマークは、自転車安全整備士が普通自転車を点検・整備（有料）すると貼付されるマークで、傷害補償や賠償責任補償、被害者見舞金（赤色TSマークのみ）が付加されている。

【赤色TSマークの補償内容】

	傷害補償	賠償責任補償	被害者見舞金
補償内容	<ul style="list-style-type: none">● 死亡● 重度後遺障害（1～4級） 一律／100万円● 入院加療15日以上 以上の傷害 一律／10万円	<ul style="list-style-type: none">● 死亡● 重度後遺障害（1～7級） 限度額／1億円	<ul style="list-style-type: none">● 入院加療15日以上 以上の傷害 一律／10万円

第二種TSマーク（赤色マーク）



(3.5×5 cm)

家庭・職場等では

- 保護者、学校関係者等は、幼児・児童の乗車用ヘルメット着用を徹底する。

重点 3 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

後部座席を含めた全ての座席でシートベルトとチャイルドシートの正しい着用を徹底し、交通事故発生時における被害の防止・軽減を図る。

運転者は

- 後部座席を含めた全ての座席におけるシートベルトとチャイルドシートの着用を徹底する。
- チャイルドシートは、乳幼児の体格に合ったものを正しく着用する。



家庭・職場等では

- 高速乗合バス、貸切バスおよびタクシー等の事業者は、全ての座席におけるシートベルト着用を徹底させるため広報啓発を強化する。

重点 4 飲酒運転等の危険運転の根絶

運転者を始め広く県民に対し、飲酒運転等の悪質性・危険性、飲酒運転等に起因する交通事故の悲惨さを訴えて規範意識の確立を図るとともに飲酒運転等の危険運転の根絶を図る。

運転者は

- 飲酒運転の悪質性・危険性を理解し、飲酒後に急用が生じた場合であっても、車両等（自転車を含む）を運転しない。
- 運転中のスマートフォン等の操作は絶対に行わない。
- いわゆる「あおり運転」は、重大な交通事故につながる悪質・危険な行為であり、絶対にしない。



家庭・職場等では

- 飲食店等における運転者への酒類提供の禁止や、飲酒した客へのタクシーや自動車運転代行等の利用の働きかけ、ハンドルキーパー運動を推進する。
- 飲酒運転の悪質性・危険性について、交通事故被害者等の声を反映した広報啓発活動等を通じて意識改革を推進し、飲酒運転を許さない環境づくりに努める。
- 自動車を使用する事業所等は、点呼時にアルコール検知器等による検査を励行し、業務中の飲酒運転根絶に努める。

ハンドルキーパー運動

自動車で仲間と飲食店などへいく場合に、お酒を飲まない人（ハンドルキーパー）を決め、その人が仲間を自宅まで送り届ける運動

